

教育に関する事務の管理及び執行の  
状況の点検及び評価報告書

(平成22年度分)

平成23年9月

北名古屋市教育委員会

# 平成 22 年度教育委員会点検及び評価報告書

平成 23 年 8 月 4 日  
北名古屋市教育委員会

## 1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表するものとされた。なお、点検及び評価を行う際には、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するとされている。

施行4年目を迎え、本報告書は一部項目の加除を行ったが、概ね前年通りの項目を上記の法に基づき点検及び評価を行い作成したものである。

## 2 点検及び評価の対象

平成 22 年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況。

## 3 点検及び評価の方法

教育委員会事務局は平成 22 年度実績をまとめるとともに、平成 22 年度教育委員会方針に掲げた重点目標について内部で、「必要性」・「有効性」・「効率性」・「達成度」の4視点から点検及び評価を行い教育委員会点検評価書としてまとめ、平成 23 年 8 月教育委員会にて議決した。

また、この点検及び評価を行うに当たっては、北名古屋市教育委員会外部評価委員の知見を活用した。報告書に委員のコメントを付した。

### ○評価判定基準

- |   |
|---|
| <p>AA：大変良い。現在の水準で継続する。<br/>A：概ね良い。内容をさらに充実して継続する。<br/>B：良いが、見直しの必要がある。改善をして継続する。<br/>C：評価が低く、抜本的な見直しを行うか、廃止をする。</p> |
|---|

## 4 点検評価の概要

平成 22 年度は、教育委員会全体で 45 の重点目標について実施した。評価の結果をまとめると AA 評価は 6 目標、A 評価は 35 目標、B 評価は 4 目標で、C 評価はなかった。

教育委員会では、教育委員の活動として A 評価とした。

教育委員会会議は、臨時会を含め 13 回開催し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、委員 6 人が教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針、教育委員会規則の制定など、教育に関する様々な議案 17 件について審議し、教育委員会としての意思決定を行った。また、学校現場の状況を把握するため、学校訪問等の学校行事に参加した。

学校教育課では、AA 評価が 2 目標、A 評価が 12 目標、B 評価が 3 目標で C 評価はなかった。

子どもたちに基礎学力の「習得」「活用」「探究」を徹底するため、非常勤講師の配置及び教師への各種研修会を実施し、学力向上の基礎となる生活習慣や学習習慣を育み、きめ細かな指導を行う等の指導がなされた結果、基礎学力の定着については概ね良好であった。今後、基礎学力をほぼ全ての子どもたちに身につけさせるためには、教員の授業力のさらなる向上とともに、家庭との連携を一層進め、学力向上の基礎となる生活習慣や学習習慣を確実に身につけさせることが必要である。

心の教育については、全ての中学校で 1 年或いは 2 年生が職場体験を行い、勤労観・職業観の育成を図り、いじめ克服プログラムによるいじめ対策が進められている等、道徳教育、体験活動が着実に行われ、子どもたちに命と人権を大切にし、夢に向かって生きる心が概ね順調に育っている。

特別支援教育については、各学校、各教員の努力により向上している。しかし、一部に課題も残しており、より一層の物的、人的支援が必要である。

登下校、在校中の安心・安全対策については、積極的に取り組んでいる。

生涯学習課では、AA 評価が 2 目標、A 評価が 13 目標、B 評価が 1 目標で C 評価はなかった。

団塊世代が定年を迎え、学習意欲を持った多くの市民が新たに生涯学習に取り組もうとしている。それに応えられるよう、名古屋芸術大学とも連携を図り、多種多様な講座を開講した。

また、地域の教育力を高めるためのボランティア活動支援センターの充実、青少年の健全育成や男女共同参画社会の推進、豊かな心を育む芸術鑑賞機会の充実などを目標に掲げ、各種事業を実施し成果を挙げている。

また、図書館については年間 50 万人を超える多くの市民に利用されており、生涯学習の中核的施設として大きな役割を果たしている。そのため、市民ニーズに即した資料の充実に努め、本に親しむ各種事業を実施した。

歴史民俗資料館は、昭和日常博物館として独自で創造的な取り組みにより高い評価を得ている。また、介護予防事業として、回想法を進めるための旧加藤家住宅に併設された回想法センターとも連携し、「地域回想法シンポジウム」「アートプロジェクト」などの事業を実施し、博物館と併せて年間 5 万人を超す人が訪れ、大きな成果を挙げている。

今後は、市民が生涯学習活動に取り組み、豊かな心を育み、健全な地域社会が形成できるよう、生涯学習施設を拡充し、施策の充実を図る必要がある。

スポーツ課では、AA 評価が 2 目標、A 評価が 9 目標、B 評価及び C 評価はなか

った。

誰もが主体的・継続的にスポーツに親しめる「総合型地域スポーツクラブ」を通して、人とのつながり、仲間づくり及び地域住民の健康づくりに貢献できた。

スポーツ施設利用では、全施設で約 575,000 人（前年度比 37,800 人：7%増）の利用者です。主な施設では、健康ドームが前年度比約 24,600 人、12%増、市民グラウンドは、約 1,800 人、9%減であったが、全体としては利用者が増加している。子どもから大人まで様々な人たちがスポーツ、レクリエーション等に、市内各種施設の有効利用を図っている。

今後は、校舎耐震工事等により学校開放施設、スポーツ施設の確保が難しくなると思われるので、長期計画を作成し、屋外の公共施設新設も含めた確保を検討する必要がある。

## 5 外部評価

### 学校教育課

○標準学力検査の定着状況を見ると、国語では、中学校の基礎・基本、読解力等は1年生、2年生ともに90%を超えており、素晴らしい。これは、生徒もさることながら、指導している教師も非常に良く努力しており、今後もこの傾向が続くことを願っている。それに反して小学生の定着状況が、かんばしくない。これは、小学生の読書離れ、作文などの文章を書くことが軽視されているのが原因ではないか。読書をするにより、思考力を深め、人生の迫体験ができ、しかも、語彙が豊富になり作文力、会話などのコミュニケーション能力も高まる。国語は、日本人の思考の根底をなすものであると同時に、全ての教科の基礎であるので、小学校から国語の100%の定着をめざし、少なくとも90%は超える様な指導をして欲しい。

また、算数・数学は、系統的な強化であるので、一箇所つまずくと、それ以降の内容は理解できなくなり、算数・数学の学習を放棄する可能性がある。毎日根気良く、しかも、粘り強く学習する習慣とともに、既習事項を反復練習して、完全に定着させて欲しい。算数・数学の基礎基本、思考力ともに、定着力が低い。これは、指導者の問題でもある。国語とともに、指導者の研修の充実と指導力の向上、指導に対する情熱を促したい。

○小学生、中学生ともに、家庭での学習時間は最低1時間以上する習慣をつけるべきだ。諸外国の児童・生徒と比較しても、日本の子どもたちの家庭学習の時間は格段に少なく、資源の少ない日本が諸外国と対等に競争するには、グローバル展開できる人材の養成が求められている。しかも、現在の日本は、少子化で子どもの人数が減少傾向にあり、困難を克服して、世界で活躍しようという子どもたちも減少しており、国力の劣化が懸念されている。勉強する時間を増やして実力をつけるとともに、困難を克服する力や忍耐力、想像力、グローバルな展開ができる人材育成を意識して、指導して欲しい。

家庭での学習時間の少なさの裏返しで、TV、DVD等の視聴時間が多すぎ、また、読書時間が少なすぎる。小学生、中学生ともに、2時間以上の視聴時間がそれ

ぞれ70%以上、50%以上あり、1日の読書時間も1時間未満の小学生はそれぞれ70%以上、中学生が80%以上と、非常に問題である。やはり、1日に1時間以上は読書をする習慣づけをして欲しい。読書する習慣をつけるには、学校での指導も必要であるが、親がTVやDVDを見る時間を減らし、読書に専念していれば、子どもたちは親の後ろ姿を見て、自然に読書をする様になる。生活習慣の見直しが必要である。

- 発達段階に応じたキャリア教育を小学校から取り入れ、職場体験を中学1年生、または2年生で3日間実施したのは、ある程度評価できる。しかし、職場体験の期間が少し短いので、各職場では、危険な仕事や苦しくて忍耐のいる仕事などをさせない様に配慮し、本当の仕事の中身や仕事をする楽しさ、厳しさが理解できないのではないか。やはり、職場体験の期間を最低1週間以上実施して、職場の楽しい体験だけでなく、苦しく、厳しい体験をしなければ、将来、就職してもすぐに退職してしまうケースが増えるのではないか。また、中学時代に職場体験を1度だけでなく、学年をまたいで2度、実施した方が良い。職場体験をして、その職場や職業が自分には不向きである場合には、次の学年で、もう一度、生徒の好きな職場を体験することにより、自分に合った職業や職場を見つける確率が多くなる。

また、日本の若者は、体力のいる仕事や苦しくて厳しい職業、人の上に乗って世話をするリーダになることを敬遠して、地域の為、国の為に積極的に働くことを嫌がる傾向がある。しかも、日本国内だけの就職を希望して、世界に羽ばたき、グローバル展開をする職業や海外に出て働くことを嫌がる傾向がある。狭くて資源のない日本は世界を相手にグローバル展開していかなければ、生きる道がない。世界展開をしていて、優秀な人材が欲しい企業にとっては、外国のもっと実力があり、世界展開できる人材を採用するのは当然である。このようなことを小学校、中学校のキャリア教育などで指導する必要がある。自分から積極的に苦しい仕事、忍耐の要る仕事に挑戦し、小さな日本の国内にとどまらず、大きな夢や希望を持って、世界を相手に挑戦する小学生、中学生を育てて欲しい。

- 学校の規則を守っている児童・生徒が80%台、困っている人を助ける思いやりの心を持った児童・生徒が約60%台しかいないのは、非常に残念な結果である。犯罪や非行に走る児童・生徒はほんの一握りであり、規範意識のない約20%の児童・生徒の中から非行少年が生まれ、教師はそれらの児童・生徒に振り回されて、学校教育の肝心の学習指導が十分できなくなってしまう。非行少年をなくし、教師が授業に専念でき、子どもたちに確かな学力を保證することが大切であり、全員に規範意識をしっかりと持たせるような指導をして欲しい。

また、困った人を助けるという思いやりの心を持った児童・生徒が60%前後しかいないのは、大きな問題である。これは、自分さえ良ければ良いという自己中心的な考えを持った児童・生徒が非常に多いということである。規範意識や思いやりの心の徹底が、学校内にとどまらず、北名古屋市内、しいては日本、全世界を安心・安全で住みやすく、素晴らしい社会作りに貢献できるのではないかと思う。規範意識、思いやりの心の育成の徹底にご尽力頂きたい。

○児童・生徒の学力の向上を図るには、教師と児童・生徒、保護者、地域との信頼関係が必要不可欠である。その為には、教師が指導力の向上をめざして、常に研鑽することが非常に重要である。指導力が向上すれば学力も向上し、児童・生徒は勿論のこと、保護者も教師を信頼する様になり、それが地域へと拡大し、学校・家庭・地域の連携が密になり、益々、成果も上がることになる。

教師の指導力を向上させ、教育効果を挙げる為に、指導主事が学校訪問をし、指導助言や教師の研修にご尽力頂いていることに対して、敬意を表す。しかし、指導主事の指導による研修だけでは限度があり、与えられた研修は、中々身に付かないものである。やはり、自発的な研修を教師自身が積極的に行うことが大切である。

また、近年は団塊の世代の教師が大量に退職し、新規採用の教師が増加の一途をたどっている。これらの新規採用教員に対して如何に実力を付け、指導力の向上に結びつけるかがカギになる。新規採用教員は、自主研修は勿論のこと、学校では学年や教務主任が中心となって指導をし、指導力の向上に努めて頂きたい。

○信頼される学校づくりを推進する為に、各小・中学校が独自のホームページを作成し、情報公開をされており、しかも、何回も中身を更新されての情報公開には敬意を表す。学校と保護者、地域との信頼関係作りには、この情報公開は一定の効果があると確信する。しかし、それだけに頼らず、本来の信頼関係作りには、学校側と保護者や地域の方々が、直接、顔を合わせ話し合うことにより、さらに信頼関係が深まると思う。学校の一般公開や授業公開の機会を増やし、保護者だけでなく地域の方々にも公開し、学校を理解してもらうことが、お互いの信頼関係を深める方策になるのではないか。ただし、昨今、校内に不審者が乱入して、児童・生徒を脅かすことがあるので、不審者対策だけはしっかりと講じて欲しい。

また、教師が児童・生徒の欠点ばかりを保護者に伝えることが多い様に思う。保護者は、自分の子どもの欠点は小さい時から十分に承知している。それにもかかわらず、教師がそれ以上に児童・生徒の欠点を保護者に伝えるので、児童・生徒は萎縮するし、保護者は教師に対して不信感を持つ様になる。やはり、児童・生徒のいい点を見つけて保護者に伝える様にすれば、保護者も教師に対して心を開き、そこから信頼関係が構築され、学力が向上し、非行化を防ぐ結果に繋がる。教師自身が、保護者とどう対応するかについても、研修を深めて欲しい。

○東海地震、東南海地震、南海地震の3つの巨大地震が近い内に、同時に発生するとの予測が出されている。3つの巨大地震が同時に発生すれば、北名古屋市は震源地からは、かなり離れているとはいえ、かなり大きな被害が予想される。その際、市民の避難場所として各学校の体育館や校舎が使われるが、耐震工事がほとんど完了しており、大いに評価できる。まだ、耐震工事が完了していない学校の耐震化を早急に進めて頂きたい。

また、今年3月に発生した東日本大震災では、地震の被害もさることながら、巨大津波の被害が甚大で多くの尊い生命が失われた。しかも、津波が来ないと信じられていた地区まで巨大津波が川をさかのぼって押し寄せ、避難途中の大川小学校の児童、教職員を呑み込み、7割以上の命が失われ今も多数が行方不明のままである。

6月15日の各紙の朝刊紙上で、名古屋大学大学院工学研究科の川崎浩司准教授が発表していた様に、3巨大地震が同時に発生したら東日本大震災並みの巨大津波が発生すると警告している。3巨大地震で発生した巨大津波による浸水地区は北名古屋市が微妙な位置にあるので、一度、北名古屋市や北名古屋市教育委員会が中心になって良く調査をし、各学校に地震対策だけでなく津波対策も今から早急に立てて、被害を最小限に抑える対策を取って頂きたい。また、万が一、液状化現象が起きた時の対策についても計画・立案されておかれると良いのではないかと。

- 標準学力検査による定着状況を見てみると、国語の場合では小学校3年生の読解力等の定着状況が低く、算数・数学のケースでは小学校5・6年生と中学校2年生の思考力等の定着状況が低迷している。こうした結果を提示するだけではなく、それをもたらした原因がどこにあるのかを学校教育課の立場から究明し明示するのも、点検及び評価活動の一環と考えられる。このことを次年度以降の課題としてもらいたい。
- TV・DVD等の視聴時間が長く、1日当たりの読書時間が極端に短いという傾向は平成21年度から変わっておらず、改善はほとんど見られない。学校外の時間の使い方を指導することはなるほど、難しいかもしれないが、しかしこうした傾向を打開するために、各学校はその学校なりの取組みを行っているものと想像される。点検及び評価においては、その取組みが具体的にどのようなものであり、どうして成果が上がらなかったのかを分析して示す必要がある。「各校の取組み状況を点検し、指導啓発を強化・充実する必要がある」という空疎な文章で結ぶのではなく、実際に行われた取り組みに対する具体性をもった分析が求められる。これもよりよい点検及び評価書を造形するための課題となろう。
- ICT環境の整備は着実に進んでいるようである。しかしながら、その環境に教員の能力が追いついていないのが現状のようである。今後ますますICTに関わる高い能力が教員に要請されるのはいうまでもない。より一層の能力向上を期待する。

#### 生涯学習課

- 家庭の教育力の低下が叫ばれて久しい。現在、青少年を健全に育成する為に青少年育成会議、少年補導委員会、青少年センターの人たちが懸命に努力しているが、中々効果が上がらない。やはり、青少年を健全に育成し非行を防止するには、学校、家庭、地域が一体となって取り組むことが大切であるが、その中でも、特に家庭での幼児期のしつけなどの家庭教育が重要である。せっかく、生涯学習課主催で「生き生き子育てセミナー」を開催しても、参加者がわずか16人しかいない。これでは、幼児期の家庭教育の重要性が子どもを持つ親たちにとっては切実感がなく、また、その重要性も理解されていない。もう少し多くの親たちが参加する様に、連絡方法を考える必要があるのではないかと。また、別の方策として、乳幼児健診で親が一堂に集まる時を利用して、家庭教育のあり方や具体的な指導方法などを、親を対象に実施するとか、また、親が会社などに勤務している場合は、各職場にお願いして、親が勤務している職場などで親を対象とした家庭教育のあり方などを開催するな

ど、指導する機会と場所を増やし、子育てに対する親の指導をもっと重視する必要がある。

「三つ子の魂、百までも」という諺がある様に、昔から家庭教育は幼児期から重視されている。幼児期の家庭教育を重視すれば、青少年の健全育成も自然に効果上がるものと信じている。

- 図書館は蔵書数も多く、市民が非常に多く活用しており、市民の文化・教養を深めるのに大いに役立っており、敬意を表する。非常に良く利用されている反面、子ども映画会やサンデーロードショー、紙芝居会、お話し会等の行事への参加者が非常に少ないのが残念である。せっかく良い行事を開催しても、こんなに参加者が少なくては、実施する意義が薄れてしまう。意義のある素晴らしい行事なので、行事を開催していることを市民に知らせる工夫をして、参加者を増やして欲しい。
- 各種講座の修了者に働きかけ自主サークルを結成させる試みは、十分な成功を収めることができなかつたようである。「単発で学習する内容の講座」が多く、受講後も学習意欲を持続させられなかつたことが原因であると分析されている。原因が特定されているのだから、次年度はより多くの自主サークルが結成されることを期待している。自主サークルが多数結成されることで市民の学習意欲が高まれば、その市民が担い手となる家庭教育の有り様もまた改善されていくはずである。社会教育と家庭教育とは有機的に連関しているという点を視野に入れながら社会教育を推進していってほしい。
- 0歳から12歳までの図書利用券発行者数は、そこに自ら読書することができない乳幼児が含まれていることを考慮したとしても少ないように感じられる。また、このことと、学校教育課が点検及び評価した1日当たりの読書時間とを総合的に考え合わせるならば、児童と本とは必ずしも結びついておらず、児童は読書とは別のところに喜びを見出しているといえるだろう。そもそも、児童一般つまりすべての児童を本に結びつけることなど現実的に不可能なのだから、「児童(この児童は児童一般と読める)と本を結びつけ、読書の喜びを提供する」という究極的な理想を目標として掲げるのではなく、それよりも下位の現実化可能な目標を考えたらよいのではないか。目標を現実に合わせて正しく設定しなければ、その目標に向けた活動は虚しく空転してしまうだろう。このことを次回の点検及び評価に向けて検討してほしい。

#### スポーツ課

- 「春の歩け歩け大会」は他に移管して、現在はスポーツ課の管轄ではないとのことであるが、この歩け歩け大会は、発足当時の目的が達成されているので、廃止しても良いと思う。発足当時は、まだ、健康志向がそんなに強くなく、散歩をしている人や、グループで歩いている人が少なかったのが目的であったと思う。しかし、現在は多くの市民が個人やグループで頻りに歩いており、その機会も非常に多くなっているため、当初の目的は達成されたと思う。



- 少年少女バスケットボール教室を開催されていることは良いことだ。しかし、何故、バスケットボールだけなのか。少年少女の体力増強が目的なら、もっと、色々な種目の教室を開催して、子どもたちのニーズに応えれば、それぞれの種目の底辺が広げられ、子どもたちのスポーツに対する見方、考え方も変わり、スポーツに対して興味を持つ様になると思う。できれば、開催種目を増やして、子どもたちのニーズに応え、底辺を広げるとともに、子どもたちの体力増強に寄与して頂きたい。
- 現在の市民体育祭は、本来の市民体育祭と程遠い。ねらいもハッキリしていない。市民体育祭は、北名古屋市の老若男女が全て参加し、市民の団結や絆を強め、郷土を愛し、思い出作りに意義があると思う。現在は、参加者も種目にも偏りがあり、北名古屋市全体で市民体育祭を盛り上げ様という雰囲気希薄である。もし、市民体育祭を今後も継続する予定なら、実行委員会の持ち方も変え、新しい考え方を基に、ねらいに沿って、北名古屋市の保育園や幼稚園、小学校、中学校、職場、自治会、老人会等が全て参加し、北名古屋市の老若男女がこぞって盛り上げる様な市民体育祭を企画して欲しい。
- 西地区の小学校の運動会では、スポーツクラブと小学校との合同で運動会が開催されており、各小学校区の市民も揃って参加して、小学校の運動会を盛り上げているのは、大変良いことだ。しかし、合同で運動会を開催する関係で、各小学校区のお祭りの様な雰囲気がある。小学校の運動会は、本来、体育の授業の発表の場であり、入場行進、退場行進、ダンスや遊戯等の各演技種目や集団行動の発表の場である。小学校も、運動会が体育の授業の発表の場であることを忘れず、集団行動やダンス等の指導時間を要する種目もきちんと指導して、運動会の場で発表をして欲しい。
- 親子水泳教室と少年・少女バスケットボール教室の参加者を対象としてアンケートを行い、それらの教室の充実度を見る試みは大変評価される。このアンケートの結果により、参加者は概ね満足していることがよくわかる。参加者を満足させるこのような教室をこれからも数多く開催してもらいたい。
- 総合体育館と健康ドームの利用者に対するアンケート調査も評価される。ただ、アンケート調査をするだけにとどまることなく、このアンケート調査の結果に基づいて、市民のニーズに見合った社会体育施設の提供に努めることを期待する。また、学校体育施設もその利用率から十分に地域住民に開放されていることが読み取れる。今後も続けてもらいたい。
- スポーツ課の点検及び評価の全体を貫いて「生涯スポーツの振興」が謳われているが、そもそもどうしてスポーツを生涯にわたってし続けなければならないのか。すべての市民が一様にスポーツを愛しているわけではなく、スポーツをすることを嫌がる市民も存在する。そうした市民を生涯スポーツに誘う説得力のある根拠が、点検及び評価のなかに織り込まれていなければならない。健康を維持するために生涯にわたってスポーツをするのだというかもしれないが、しかし健康維持のためであるならばスポーツである必然性はどこにもない。食事に気をつけたりサプリメントを飲んだりしてもいいことである。生涯スポーツの原理的な意味を提示できるかどうかは、今後の最重要の課題となるだろう。

外部評価委員 森田裕之：名古屋芸術大学人間発達学部准教授  
村瀬義雄：前教育長

## 6 おわりに

教育事務の点検・評価は4年目を迎え、過去3年間いただいたご意見等を踏まえ実施した。教育委員会として改善策の方向性を再確認した。また、新たに必要とされる視点もあった。これらのことを今後の教育行政に生かし、北名古屋の教育の充実に努めていきたい。

## 平成 22 年度 教育委員会点検及び評価書

### I 教育委員会

教育委員の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

(1) 教育委員会の開催状況

教育委員会会議	8 回
教育委員会臨時会議	1 回
教育委員会協議会	4 回
議案	17 件

(2) 教育委員会委員の主な活動

行事名	回数等	延べ人数
委員研修会	1 回	5 人
視察研修	2 回	11 人
愛日地方教育事務協議会	6 回	12 人
入学式・卒業式	16 校	23 人
学校訪問	8 校	15 人
運動会・体育祭	11 校	11 人
学校経営状況調査会	1 回	6 人

### II 学校教育課

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、それを活用する学習活動を充実する

ア 基礎的・基本的な事項を取得させる習得型及び活用型の授業実践とその検証・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

全ての学校において、学校教育法施行規則に示された標準時数を上回って授業を行った。

習得型授業による基礎基本の習得や活用型授業による読解力・思考力の育成の状況を標準学力検査により検証したところ、小学校中高学年にやや課題はあるものの概ね良好であった。今後は、全ての学年で良好な状況を実現する必要がある。

平成 22 年度における授業日数及び授業時数（平均総授業時数）

区 分	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
授業日数	198	197	197	197	197	195	199	197	188
授業時数	866	915	975	1,019	1,014	1,014	1,022	1,020	981
標準時数	816	875	945	980	980	980	980	980	980

平成 22 年度標準学力検査による定着状況

国語の定着状況

学 年	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2
基礎基本	99	90	84	88	73	84	91	93
読解力等	76	76	67	79	81	92	94	96

(標準学力検査「目標基準準拠観点別学習状況到達度診断」による十分満足と概ね満足  
の者の割合：％、中 3 は実施せず)

算数・数学の定着状況

学 年	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2
基礎基本	98	83	89	84	78	83	85	89
思考力等	97	81	77	75	69	68	74	65

(上記標準学力検査による十分満足と概ね満足 of 者の割合：％、中 3 は実施せず)

イ 家庭と連携し、学習習慣や生活習慣の確立・・・・・・・・・・

評価	B
----	---

家庭での勉強時間が 30 分未満の小学校 6 年生は 17.8%、  
一方、3 時間以上 TV 等を見ている児童は 48.1%。家庭での勉強時間が 1 時間未  
満の中学校 3 年生は 21.0%、3 時間以上 TV 等を見ている生徒は 28.8% という状  
況にある。また、読書を全くしない児童が 29.3%、生徒 40.6% もいる。

学校の授業以外の勉強時間 (%)			TV、DVD 等の視聴時間 (%)		
区 分	小 6	中 3	区 分	小 6	中 3
3 時間以上	6.1	21.5	4 時間以上	28.4	16.0
2 時間以上 3 時間未満	14.8	32.8	3 時間以上 4 時間未満	19.7	12.8
1 時間以上 2 時間未満	34.9	24.7	2 時間以上 3 時間未満	25.1	25.6
30 分以上 1 時間未満	26.4	13.3	1 時間以上 2 時間未満	18.2	28.8
30 分未満	13.8	5.2	1 時間未満	8.0	15.2
0 時間	4.0	2.5	0 時間	0.6	1.6

各校の努力にもかかわらず家庭での  
学習習慣や読書習慣を含めて生活習慣  
を立て直す必要がある児童生徒が少な  
からずいる状況は、昨年と比較し改善  
されていない。教育委員会および各校  
は今一度取組み状況を点検し、指導啓  
発を強化・充実する必要がある。今年  
度（予定）は、家庭学習の手引きを編集発行し家庭での一層の取り組みを促す。

1 日当たりの読書時間 (%)		
区 分	小 6	中 3
2 時間以上	8.5	4.9
1 時間以上 2 時間未満	12.7	6.6
30 分以上 1 時間未満	23.6	15.5
30 分以下	25.9	32.4
0 時間	29.3	40.6

ウ 小学校外国語（英語）活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

全ての小学校に3人の外国語指導助手を派遣し、実践的なコミュニケーション能力の素地の育成を図った。特に平成23年度から小学校5・6年へ本格導入される予定の英語活動を前倒し、導入・実施した。

外国語活動の総時間数

小1	小2	小3	小4	小5	小6
8	8	54	54	355	347

エ 環境教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

全ての学校において、環境教育の指導計画が作成され、積極的に取り組まれている。「環境にやさしい学校づくり」を目指し、温室効果ガス排出削減の実践「節電・節ガス行動」に全校が取り組んだ。平成18年度、19年度の平均値より、1学級当たりの電気使用量は、1.1%、ガス使用量は5.2%の削減に留まった。気象条件もあるが使用総量では増加している状況であった。

教育環境の保持と環境教育の充実は決して相反するものではなく、再度、点検・評価し、取組みを充実・強化する必要がある。

(2) 体験活動を充実し、社会性を育成し、命と人権を大切に、夢に向かってともに生きる心を育てる

ア いじめ解消100%をめざし、自己有用感を育成する活動を推進・充実・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

各校は、いじめ問題の克服に向け、国立教育政策研究所生徒指導研究センターの支援を受け、教育委員会の指導のもと、ピース・メソッドとピア・サポートプログラムに取り組んだ。

平成22年度において、小学校では650件のいじめを把握し、そのうち647件が解決した。残りの3件は指導後の見守り中である。中学校では99件のいじめを把握し、その内の97件については解決した。残りの2件については指導を継続している。平成22年度に比較して件数が増えているのは、各学校が、よりいじめられている子どもの立場にたっていじめの把握に取り組んだ証である。

イ 夢を持って生き方や将来を考え進路を選択する能力や態度を養うキャリア教育を推進・充実・・・・・・・・

評価	A
----	---

小・中学校ともに、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、全ての教育活動を通して発達段階に応じたキャリア教育（従来の「進路指導」を小学校段階から実施し、適切な進路選択能力を育む教育）を推進した。特に中学校では、中学校1年生或は2年生が3日間の職場体験活動を行った。職場体験活動実施人数:722人(クラス数:22クラス) 受入協力事業所数:210箇所

ウ 規範意識や思いやりの心の育成・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	B
----	---

人としてしてはいけないことなど社会生活を送るうえで人として持つべき最低限の規範意識や思いやりなどの道徳性を培う道徳教育は、道徳の時間を中心にして、全ての学校で実施してきた。また、非行防止教室等も全ての中学校で実施した。

小学校6年生で去年1年間「学校の決まりを概ね守った。」とする児童の率は87%であった。同様に中学校2年生では「学校の規則を概ね守った。」とする生徒の率は89%であった。また、「困っている人を助けた」という小学校6年生は61%、中学校3年生は56%であった。

約1割の児童生徒が「学校の決まりを守れなかった」とし、約4割の児童生徒が「困っている人を助けなかった」としている。規範意識や思いやりの心が希薄な児童生徒がおり、指導の強化を図る必要がある。学校の道徳教育の充実を図ることはもちろんであるが、家庭での教育が必要不可欠であり、今までの方法を見直し、啓発活動を充実・強化する必要がある。

(3) 教育の専門家としての自覚を高め、実践力・指導力の向上を図る

ア 研修体制の充実・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

学び支援事業の一環として教育委員会主催の研修会を5回実施し、延べ555人が参加した。また、全ての学校が、それぞれにテーマを持ち講師を招聘し校内授業研究(OJT)に取り組み指導力向上を図った。なお、指導主事が全校を訪問し、指導助言を行った。小学校においては、1校当たり平均3.8時間の授業研究を7回行い、延べ1,358人(教員数:281人)の教員がスキル・チェックを受け、スキル・アップを図った。中学校においては、1校当たり平均2.4時間の授業研究を7回行い、延べ508人(教員数:166人)の教員がスキル・チェックを受け、スキル・アップを図った。

イ 教職員評価の推進・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

管理職による面接時間の確保等に課題はあるものの、全ての学校で実施した。教職員の能力開発及び組織の活性化に寄与した。

ウ ICT活用教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	B
----	---

年度途中であったが、全校にICT環境が整えられたのを受け、ICT機器を活用し「わかる授業」や情報モラルの育成に取り組むこととした。そのためには、全ての学校で、全ての教員がICTを活用した指導を実施できることを目標とした。教育委員会では情報機器の使い方、セキュリティーについての研修会を実施し、各校では情報教育の指導計画を作成するとともに、研修会を行った。まだ、目標には程遠い状況にあるので、各学校、各先生の一層の取り組み強化が必

要である。

ICT活用指導能力を有している教員の割合 (%)

区 分	大項目 A	大項目 B	大項目 C	大項目 D	大項目 E
北名古屋市 22 年度	70.4	54.0	54.3	65.8	64.9
北名古屋市 21 年度	72.9	53.9	62.9	65.6	62.4

大項目 A：教材研究・指導の準備・評価などに ICT を活用する能力

大項目 B：授業中に ICT を活用して指導する能力

大項目 C：児童（生徒）の ICT 活用を指導する能力

大項目 D：情報モラルなどを指導する能力

大項目 E：校務に ICT を活用する能力

#### (4) 信頼される学校づくりを進める

##### ア 学校情報の積極的公開・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

各小・中学校が独自にホームページを作成し情報を公開し

ている。平均更新回数が小学校で 136 回、中学校で 41 回であった。

システム変更への対応ができず、更新回数が少ない学校が幾つかあった。

##### イ 特別支援教育推進体制の充実・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	AA
----	----

師勝中学校を除く 15 の小・中学校に特別支援学級を設置す

るとともに、全小学校で通級指導教室を開設し、さらに、全小学校及び 1 中学校に特別支援員を配置している。

また、全ての学校に特別支援教育校内委員会を設け、特別支援教育コーディネーターを配置し、推進体制の充実を図っている。各学校では、専門家を招き、障害児事例研究会等を行うとともに、小学校では、延べ 545 人、中学校では延べ 110 人の教員が特別支援教育研修を受講し、スキル・アップを図った。

さらに、個別の指導計画を特別支援学級はもとより通常学級においても策定している小学校が 10 校、中学校が 5 校であった。同様に個別の教育支援計画を通常学級において策定している小学校が 10 校、中学校が 4 校であった。

（特別支援教育：教育上特別の支援を要する児童生徒に、困難を克服し自立を図るために必要な教育）

##### ウ 学校評価の充実・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

全ての小・中学校で学校評議員が参加して評価書を作成し、

学校のホームページに掲載する等公開をしていることは大いに評価できる。今後は、学校の教育目標に基づき重点的・短期的でより具体的な目標を設定することが重要である。また、評価結果に対する対応・改善策等においてもより具体的且つ明確に示す必要がある。

エ ICT 環境整備・充実・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	AA
----	----

児童生徒の情報活用能力の育成、教員の ICT 活用指導力の育成等を目的に ICT 環境の整備、充実を図った。パソコンについては、児童生徒用 785 台、教職員用 394 台を整備した。その結果、文部科学省の児童生徒用パソコンの整備目標値である 3.6 人に 1 台に対し、既存の台数を含めて 3.9 人に 1 台の整備となった。主な周辺機器として、電子黒板 16 台、デジタルテレビ 283 台を整備し、デジタルテレビは単にテレビの視聴だけではなく、パソコンのモニターとしても活用を行った。また、システムの効率運用を行うため、従来の各校での管理から、センターでの一括管理の導入、情報セキュリティポリシーの制定等ネットワークの再構築を行った。

(5) 家庭・地域との連携・協働を図り、子どもの安全・安心を推進する

ア 校舎・体育館の耐震化の推進・・・・・・・・

評価	A
----	---

栗島小学校校舎、訓原中学校校舎の工事を行った。校舎は 16 校中 13 校、体育館は全ての学校で耐震補強工事が完了した。平成 22 年度末での校舎・体育館の耐震化率（棟数）は、小学校で 90.4%、中学校で 97.1%である。なお、平成 23 年度に市内全小・中学校の耐震補強工事が完了する予定である。

イ 不審者対策の推進・充実・・・・・・・・

評価	A
----	---

防犯ブザーを小学校入学時に配付した。さらに、全児童生徒が通学時に所持し、使用できるように定期的に点検・使用法等を指導した。小学校では保護者やスクールガード（361 人）による付添登下校、見守り、見回りなどの不審者対策を実施した。なお、平成 22 年度の北名古屋市内の不審者情報は 53 件であった。

ウ 交通安全対策の推進・・・・・・・・

評価	A
----	---

全小学校では、市交通安全協会の協力を得て、小学校 3 年生の全児童を対象に自転車教室を実施し、正しく安全な自転車の乗り方を学んだ。小学生の交通事故は、対前年比、同数であった。

平成 22 年 市内小学生の交通事故

区 分	21 年	22 年	前年比
歩 行 中	2	5	+3
自転車乗車中	16	13	△3



### Ⅲ 生涯学習課

#### (1) 男女共同参画社会の実現をめざす

##### ア 男女共同参画プランに基づき、各種委員会等への女性登用率を高める・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

昨年引き続き審議会に経過を報告した。内容は、各種事業の実施状況、課題と今後の目標等である。

審議会等への女性登用率は行政委員会で10.5%、法令・条例で設置された審議会等で28.1%、規則・要綱で設置された審議会等で41.3%、また、女性管理職の登用率は23.1%であり、前年度と比較して、行政委員会は3ポイント減ったが、他の項目では0.4から6.5ポイント上昇している。

##### イ 男女共同参画推進のため、各種事業を実施する・・・・・・・・

評価	A
----	---

情報紙「とらいあぐる」を、市民活動団体「さんか・クラブ」との協働で編集を行い、4コマ漫画やグラフを使った読みやすい紙面を心掛け、年2回発行し全戸配布した。今年度は、プランの進捗状況チェックと「イクメン」について取り上げ、市民に男女共同参画社会の必要性を示した。

また、啓発事業として、市民による男女共同参画推進補助事業「男女共同参画セミナー」（44人参加）、あいち国際女性映画祭2010『韓国女性監督作品『坡州（パジュー）』（539人参加）等を開催し、男女共同参画について市民とともに考える事業を実施した。

#### (2) 地域・家庭が一体となって教育力を高める

##### ア 家庭教育のあり方を見つめ直し、地域と家庭の教育力の活性化を図る・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

地域ぐるみで子どもを健全に育成するため、師勝北小及び白木小学校区で行われた「地域ふれあい活動」に対し補助金を交付し支援を行った。

子どもの体験活動では、体験活動ボランティア活動推進事業（わくわく体験教室）を12教室開催し、226人が参加した。

また、きたっこスクール（将棋クラブ・太鼓クラブ）を月2回開催し、将棋クラブには63人、太鼓クラブには41人が参加した。子ども交流セミナーは大桑村交流会（7月）と北名古屋市交流会（10月）を開催し、20人の小学6年生が参加した。

子育て支援事業では、家庭教育のあり方を見つめ直すため、「いきいき子育てセミナー」を7回開催し、延べ66人が参加した。

##### イ ボランティア活動支援センターを充実し、地域の教育力を高める・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

体験活動ボランティア活動支援センターでは、子ども会や保育園等から依頼のあった 54 事業に対し、ボランティア講師を紹介した。

また、中学生ボランティアは、2 事業に延べ 282 人、行政ボランティアは、18 事業に延べ 126 人参加し、前年度よりそれぞれ 113 人と 19 人増加しており、ボランティア活動が定着してきた。

### (3) 青少年の健全育成をめざす

ア 次代を担う青少年がのびのびと健やかに成長するように、  
地域社会が一体となって健全育成活動を推進する……………

評価	A
----	---

青少年育成会議、青少年育成運動推進員、少年補導委員会  
が綿密に連携を図り、少年非行の防止に対する地域住民の理解と関心を高めるため、街頭啓発活動を西春駅及び徳重・名古屋芸大駅において月 1 回、朝のあいさつ運動を各小中学校において月 2 回実施した。

また、次代を担う青少年の健全育成を図るため、青少年育成会議大会を開催し、善行少年の表彰、小中学生のポスター・標語の表彰、少年の主張の発表等を行った。

夜の徘徊による非行を防止するため、西枇杷島警察署とも連携し、市内のゲームセンターを中心に、夜間巡視活動を 3 回行った。

イ 青少年団体の育成に努める……………

評価	A
----	---

青少年団体（ボーイスカウト、ガールスカウト、少年少女  
合唱団、少年少女発明クラブ）7 団体が円滑な運営を行えるよう、補助金を交付し  
支援した。それにより、各団体が活発な活動を行うことができた。

### (4) 生涯学習活動を支援する

ア 各種講座の充実を図り、生涯学習に関する情報や資料の提  
供を積極的に推進する……………

評価	A
----	---

市民の学習意欲の向上を図るため、市民から要望の高い各  
種生涯学習講座（21 講座、494 人）や、希望の多いパソコン講座（6 講座、102 人）、  
を開催した。名古屋芸術大学との連携では、専門的な内容を含む生涯学習大学公開  
講座（24 講座 261 人、うち北名古屋市民 139 人）を開催し、学習意欲を高める市  
民向け講座を計画的に行うことができた。

イ 各種講座の修了者に働きかけて、自主サークル結成を促し、  
地域連帯意識の醸成を図る……………

評価	B
----	---

自主サークルの結成は 1 団体「手づくりカード」に留まっ  
た。単発で学習する内容の講座が多く、受講後も引き続き学習意欲を高めていける、  
時代に即した講座を開設する必要がある。

**(5) 芸術文化活動を通じて豊かな心を育む**

**ア 市民が気軽に芸術に接することができるよう、名古屋芸術大学との連携により、芸術を鑑賞する機会の充実に努める**.....

評価	AA
----	----

市民芸術劇場を5回開催し、延べ913人が参加した。今年度は、市内商業施設のオープンスペースで3回実施したことで、多くの市民が気軽に芸術鑑賞する機会を提供できた。

また、名古屋芸術大学が各地で行う公演（24公演）に市民を招待し、延べ531人の市民が鑑賞した。

**イ 芸術文化の中心施設として、文化勤労会館の有効活用を図るとともに、市民ニーズにあった事業を実施する**.....

評価	A
----	---

芸術文化活動の拠点である文化勤労会館は、年間124,900人（1日平均398人）の利用があり、61団体を有する文化協会の中心的活動施設として、また、オーケストラや吹奏楽団など音楽団体の定例活動の場として有効利用が図られている。

文化勤労会館では、8月にパペットフェスタ、12月に北名古屋市民音楽祭が行われ、パペットフェスタには延べ4,250人、音楽祭には486人の入場があり、多くの市民に親しまれる行事として定着している。

**(6) 市民に親しまれる図書館をめざす**

**ア 図書館を市民の文化生活の足場にする**.....

評価	A
----	---

2つの図書館で276,583冊の図書資料、14,933点の視聴覚資料をそろえ、各種資料を151,568人の方に661,825点を貸し出した。また、年間526,040人が入館し、市民1人当たりでは、6.4回の利用があり、文化・生涯学習の場となった。

**イ 利用者から求められた資料は、すみやかに提供する**.....

評価	A
----	---

館内OPAC(蔵書検索端末)を利用した利用者からの資料要求、利用者からの相談には専門的知識や資料検索を活用して的確に対応した。所蔵していない資料は、購入または相互貸借により愛知県図書館をはじめ、県内の図書館等から借用して提供した。

リクエストにより購入	相互貸借	
	愛知県図書館から借用	その他図書館から借用
805冊	419冊	1,076冊

ウ 児童と本を結びつけ、読書の喜びを提供する・・・・・・・・

評価	A
----	---

保育園・幼稚園・小学校からの図書館見学を通して、図書館の利用の仕方を説明し、本に親しみを持ってもらった。絵本や紙芝居のおはなし会を71回実施した。0歳から12歳までの図書利用券発行者数は、2,820人で全体の14.7%となっている。児童書の蔵書数は、次のとおりである。

絵本	紙芝居	文学	その他	合計
39,267冊	1,685冊	28,643冊	24,305冊	93,900冊

また、ブックスタート事業として、903人の10か月児に、絵本の読み聞かせをして、親子で絵本に親しんでもらう機会を作り、絵本をプレゼントした。

(7) 歴史民俗資料館（文化財の保護と資料を収集・活用する）

ア 特別展・企画展の充実を図り、資料の公開を積極的に推進する・・・・・・・・

評価	AA
----	----

歴史民俗資料館には、市内外より年間38,203人の入館があり、開館20周年として開催した2回の特別展には合計10,872人が来館された。また、特別展期間中に高齢福祉課と協働で実施した地域回想法シンポジウムには1,172人の参加を得ることができた。

また、山梨県立博物館の開館5周年記念特別展に展示協力を行い、2万人を超す入館者を得て好評を博した。

イ 貴重な文化財を後世に伝えていくことの大切さを広く伝えることにより文化財保護を推進する・・・・・・・・

評価	A
----	---

43件の指定文化財の管理に対して1,584千円の補助を行い、文化財保護に努め、加えて多くの文化財の管理者による公開を実現した。小学校5～6年生27人で構成する文化財愛護少年団の活動を通じて、次世代の保護者の育成を図った。

また、埋蔵文化財保存活用事業として、国庫補助を得て出土品の再整理、市内遺跡地図の発行、出前博物館用解説パネルを作成し活用を推進した。

ウ 回想法を用いて高齢者のケア、介護予防事業に取り組む・・・・・・・・

評価	A
----	---

高齢者施設等の「昭和日常博物館」の見学を促進、歴史民俗資料館所蔵の資料の貸出しなどにより、回想法の一翼を担った。また、旧加藤家住宅と併設された回想法センターには、8,525人の来館者があった。

また、旧加藤家住宅において名古屋芸術大学と連携を図り「旧加藤邸アートプロジェクト2010－記憶の庭で遊ぶ」を開催し、1,458人の見学を得た。

## IV スポーツ課

- (1) 生涯スポーツの振興を促進し、市民の体力の向上を図る（スポーツ・レクリエーション活動の更なる充実をめざすとともに地域住民主体のスポーツ振興を促進する）

ア 親子水泳教室・・・・・・・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

親子水泳教室については、親子でふれあいながら楽しく参加できる教室として4回コースで開催し、親子で16組、37人の参加者があり、水に親しむ素地をつくることや水泳への苦手意識の克服、水泳の楽しさを伝えることができた。

また、参加者からアンケート調査を行った結果は下記のとおりであった。

配布枚数	16枚	回収枚数	16枚	回収率	100%
------	-----	------	-----	-----	------

アンケート結果

設 問 内 容	適 切	普 通	良くない
会場について	11人		5人（広すぎる）
参加人数について	13人		3人（多い）
対象者について	16人		
指導について	15人	1人	
開催日数について	10人		6人（少ない）
開催時期について	14人		2人（出校日に重なる）

※ アンケート結果から「適切」との回答が全体の82.3%となった。

イ 少年・少女バスケットボール教室・・・・・・・・

評価	A
----	---

バスケットボールの基礎的技術の習得と子どもの体力向上を図る教室として4回コースで開催し、40人の参加者があった。トップレベルのコーチ指導により、しっかり技術を習得させることができた。

また、参加者からアンケート調査を行った結果は下記のとおりであった。

配布枚数	40枚	回収枚数	32枚	回収率	80%
------	-----	------	-----	-----	-----

アンケート結果

設 問 内 容	適 切	普 通	良くない	その他
会場について	20人		7人（広すぎる）	5人（暑い）
参加人数について	25人		6人（多い）	
対象者について	27人		4人（小・中学生で分ける）	
指導について	25人	6人	1人	
開催日数について	19人		13人（少ない）	
開催時期について	26人		6人	

※ アンケート結果から「適切」との回答が全体の74.3%となった。

ウ 市民体育祭の運営が充実するよう支援する・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

市民体育祭については、市民体育祭実行委員会を組織し、手作りの企画、運営による市民にとって身近な体育祭として開催した。約3,000人の参加者があり、多くの市民が一堂に会してコミュニケーションや親睦を図るとともに、スポーツ・レクリエーションに関する興味、関心を高めることができた。

エ 愛知県市町村対抗駅伝大会への積極的な参加を図る・・・

評価	A
----	---

2005年に開催された「愛・地球博」の理念を次の世代へ語り継ぐメモリアルレースとして開催され、この大会に参加するため選考会を開催し、小・中学生、ジュニア（高校生）、一般、40歳以上と幅広い年齢層の男女で北名古屋チームを編成し大会に参加した。

オ 全国大会等出場者の士気高揚を図る・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

全国大会等へ出場される方（2団体、15人）を市長から激励することにより、出場者本人の自信と誇りをもっていただくとともに、士気の高揚とスポーツ活動への動機づけ及び競技スポーツの推進と競技力の向上を図ることができた。

(2) スポーツ・レクリエーション団体の育成の充実を図る

ア 体育協会組織の充実をめざす・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

体育協会（加盟20団体、3,597人）の組織の充実に向け補助金を交付し、新春チャレンジマラソン大会、スポーツ講演会、各種スポーツ教室、春・秋季体育大会（延10,720人参加）等々の活動に支援をした。

また、毎月、常任理事会、理事会を開催し活動内容及び組織の充実を図った。

イ レクリエーション協会活動の充実を図る・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

レクリエーション協会（加盟11団体290人）に補助金を交付し、全国一斉「あそびの日」、レクリエーション誕生祭、スポ・レク祭、ウォーキング&芋煮会（延1,638人参加者）等々の活動に支援した。また、自治会を始め多くの団体からレクリエーション講師の派遣依頼や出演依頼（83件702人）があり年間を通じ活発な活動を行うことができた。

ウ ふれあいスポーツクラブの育成に努める・・・・・・・・・・

評価	A
----	---

スポーツクラブ（鴨田、西春、白木、五条、栗島、東の6スポーツクラブで会員総数1,469人）では、子どもから高齢者までが「いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむ」ことを目的に活動しており補助金を交付し支援したことにより、1日型イベント（延参加者14,949人）、常時活動の教室

(38,445人参加)、講習会(491人参加)等の事業を活発に行うことができた。

また、定期的に6スポーツクラブ連絡会議、理事会を開催し、活動内容及び各スポーツクラブの連携を図った。

**エ 体育指導委員及びスポーツ振興委員の育成に努める・・・**

評価	A
----	---

指導者養成講習会等、研修の内容を充実させ、高い専門的知識、技能、資格を有する指導者の養成と確保を行った。

**(3) 社会体育施設の有効利用を図り生涯スポーツを推進する**

**ア 社会体育施設を拠点としたスポーツ活動の推進・・・**

評価	AA
----	----

社会体育施設の年間利用者は延べ575,242人(前年度比37,822人:7%増)であった。生涯スポーツ社会の実現やスポーツ振興の視点に立った総合型地域スポーツクラブ、体育協会、レクリエーション協会の活動の拠点として、健康志向の高まりや市民のスポーツへのニーズに対応し、気軽に利用でき、レクリエーション活動を活発に行える「場」を提供することができた。

また、総合体育館、健康ドームの利用者にアンケート調査を行った結果は、下記のとおりです。

**総合体育館**

配布枚数	30枚	回収枚数	27枚	回収率	90%
------	-----	------	-----	-----	-----

**アンケート結果**

設 問 内 容	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
施設・設備の充実度	5人	11人	5人	4人	1人	1人
利用のしやすさ	10人	5人	9人	2人	0人	1人
利用日、利用時間	16人	5人	5人	0人	0人	1人
利用料金	8人	9人	5人	4人	0人	1人
職員の対応	14人	7人	3人	1人	1人	1人

※ アンケート結果から「満足」「やや満足」との回答が全体の69.2%となった。

**健康ドーム**

配布枚数	30枚	回収枚数	30枚	回収率	100%
------	-----	------	-----	-----	------

**アンケート結果**

設 問 内 容	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
施設・設備の充実度	19人	6人	4人	1人	0人	0人
利用のしやすさ	12人	6人	9人	3人	0人	0人
利用日、利用時間	9人	5人	10人	6人	0人	0人
利用料金	16人	8人	3人	2人	0人	1人
職員の対応	21人	4人	4人	0人	1人	0人

※ アンケート結果から「満足」「やや満足」との回答が全体の71.1%となった。

社会体育施設の年間延べ利用者数

総合体育館	191,992 人
健康ドーム	231,814 人
ジャンボプール	41,989 人
市民プール	23,312 人
二子テニスコート	38,422 人
市民グラウンド	18,013 人
ソフトボール球場	29,700 人
合 計	575,242 人

イ 学校施設開放を市民のスポーツ活動の場として提供……

評価	AA
----	----

学校体育施設には、小中学校 16 校の運動場及び体育館があり、運動場は年間延べ 7,274 回開放され、その内 6,132 回（利用率 84%）の利用があった。

また、体育館は年間延べ 9,997 回開放され、その内 6,503 回（利用率 65%）の利用があり、学校体育施設は、地域住民の身近な施設であり、手軽にスポーツ活動を行う場として、生涯スポーツ振興の一翼を担った。

学校施設年間利用回数

区 分	運動場	体育館	武道場	テニスコート
小学校	4,722 回	4,879 回		
中学校	1,355 回	1,624 回	319 回	1,598 回
西春高校	55 回			